

2021（令和 3）年度 事業報告書
2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 Earth as Mother 岐阜

1 事業実施の概要

特定非営利活動法人 Earth as Mother 岐阜は、岐阜県内の土岐市（東濃エリア）、飛騨市（飛騨エリア）、美濃市（美濃エリア）を中心に活動。

4 期目となる令和 3 年度も引き続き、生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業として、土岐市及び飛騨市より受託の生活困窮者就労準備支援事業実施。利用者の方の心のケアと自立への訓練の場所として環境整備、社会復帰に向けた支援を行った。特に飛騨市からは、賃借契約により、元保育園施設の提供を受け、施設を利用し、支援内容が充実したものとなった。

また、前年度の岐阜県東濃圏域ひきこもり居場所事業の実施に続き、今年度より飛騨圏域のひきこもり居場所事業を受託。県の要請に応え、地域での生きづらさを抱える当事者やご家族の為の居場所整備と各開催圏域における関係諸機関との関係づくりに取り組んだ。

飛騨エリアでは、農林水産省の食料産業・6 次化交付金（地域での食育推進事業）で、在来大豆の播種から収穫、味噌ときな粉作りを一連の食育食農体験として開催した。恒例の第 6 回アーステーブルでは、サツマイモ堀と火起こし体験を実施、マザリーファームでは完全オーガニックの米と野菜作りを会員や地域住民の参加を募り、食や農業に対する理解を深める活動を行った。

美濃エリアでは、美濃市よりふれあい農園の提供を受け、今年度より活動メンバーを募りながら、農業体験学習を開催。大豆播きから収穫、味噌作りを行ったことにより、賛同者が増え、次年度へつながる事業活動となった。

東濃エリアで予定していた生活困窮者の自立支援、困難を抱える若者・ひきこもり支援交流会は新型コロナウイルス感染の影響により、中止となった。

2 事業実施に関する事項

③保健、医療、老人福祉及び健康促進事業を支援する事業

(ア) 事業内容・飛騨エリア

コミュニティスペース「グミの木」 毎週水曜日 10:00～14:30 オープン
高齢の方（独居生活の方）や地域の方々が集えるようなコミュニティスペースとしてのカフェを定期的に開き、居場所、地域とのつながりの回復、活躍の場、生きがいの場としての運営を実施した。

生活困窮者の方に接客や運営に参加してもらい、高齢者と若者の接点を作り、高齢者と語ることで、生活の知恵を学んだり、コミュニケーションの訓練の場として自然な関りが出来る、多世代が集う場所となった。

地域の方の写真展示、本の貸出し等も行った。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
③ 保健、医療、福祉及び健康促進を支援する事業	コミュニティスペース グミの木	(A)4月～3月 (B)グミの木 (C)3名	(D) 会員、地域住民 (E) 94名	208,093円

(2) 総費用

総合計	208,093円		
(内訳) 事業費	仕入高	12,244円	消耗品費 154,449円
	広告宣伝費	2,680円	研修費 38,500円
	支払手数料	220円	

(3) 収益

総合計	245,545円	
(内訳) 飛騨市やさしいまちづくり応援事業補助金	194,333円	寄付金 51,212円

(4) 事業の様子

		
<p>地域の高齢者の憩いの場として</p>	<p>社会とのつながり 持てる居場所として</p>	<p>社会復帰を目指す若者の 訓練の場として</p>

(5) 成果と課題

新型コロナウイルスの影響により、感染対策のため密にならないよう人数制限を設けたり、まんえん防止措置期間中の中止などで、運営規模を縮小するなど計画していたような運営が出来ない部分はあったものの、施設移転に伴い、2021年12月よりリニューアルオープンとして、施設内の整備を行い、広いスペースでの運営が可能となった。そのことにより、利用者の人数も徐々に増え始め、この事業の必要性を少しずつ伝えることが出来るような仕組みが整ってきた。

施設には厨房があるため、当初より目標である地域の高齢者との共食や多世代が集う、役割のある居場所として運営を目指し、次年度の事業展開に繋げていく。

(イ) 事業内容・東濃エリア

「岐阜県東濃エリア 困難を抱える若者・ひきこもり支援に関する交流会」

令和元年、令和2年度に土岐市後援および土岐市社会福祉協議会、岐阜県精神保健福祉センター、その他関係機関の協力のもと2回の開催を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症のまん延のため令和3年度の開催は中止。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
③ 保健、医療、福祉及び健康促進事業を支援する事業。	「第3回岐阜県東濃エリア 困難を抱える若者・ひきこもり支援に関する交流会」ひきこもり支援活動に対する啓発活動、市民参加のシンポジウムの開催。	(A) 2月19日予定 (B) 土岐市文化プラザ (C) 0名	(D) 受益対象者の範囲 (E) 0名	0円

(2) 総費用 0円

(内訳)

(3) 収益 0円

(内訳)

④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティの構築事業

(ウ) 事業内容・美濃エリア

正会員のメンバーとその子供たちを中心に、大豆の播種を行なった。大豆は、美濃地方（御嵩町あたり）の土着品種である「中鉄砲（ちゅうでっぽう）」を購入。当会の副理事長でもある雲英頭一より農業指導を受けながら播種作業を実践した。また、午後からはトウモロコシの苗植えも体験した。同時に、雲英副理事長より有機循環自然農法についての説明も受けながら作業を行なった。

【スケジュール】

- 10：00 作業説明開始
- 10：30 播種作業
- 12：00 昼食
- 13：00 トウモロコシ苗植え作業
- 15：00 終了

【参加者】

理事：2名、正会員：6名 一般：10名（大人2名、子ども8名）

【参加者の反応、感想】

- ・大豆を植える作業は初めてで勉強になった。
- ・子供たちが想像以上に作業に一生懸命取り組んでくれた。
- ・大豆がどういった形で実になるのか楽しみ。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティ構築事業	大豆蒔きと有機循環自然農法の学習	(A) 6月5日 (B) 美濃エリア、和紙の里わくわくファーム「ふれあい農園」「創造交流館」 (C) 2名	(D) 会員、地域住民 (E) 16名 (大人8名、子ども8名)	11,880円

(2) 総費用 11,880 円

(内訳) 事業費 仕入高 9,240 円 燃料費 2,640 円

(3) 収益 9,500 円

(内訳) 参加費 9,500 円 (1,200 円×8 名)

(4) 事業の様子

		
集合写真	糸張り作業	足で目印付け
		
大豆撒き	トウモロコシの苗植え①	トウモロコシの苗植え②

(5) 成果と課題

初めての大豆播種作業だったため段取りが分からなかったが、雲英副理事長の農業指導のお蔭で子どもたちも一緒に楽しく作業ができた。

来年度以降は、必要備品や作業内容を踏まえて、事前準備をきっちりと行ないたい。

また、事前告知を含めた周知不足により、当初 30 名の参加予定が理事や正会員とその家族を中心に 18 名 (子ども含む) となってしまったため、来年度以降は正会員以外の参加も促せるよう、事前告知や声掛けに務める必要がある。

(エ) 事業内容・飛驒エリア

完全無農薬栽培での米作り (田植え、稲刈り、脱穀)、マザリーアースファームでの野菜作りを実施。

特に畑では就労準備事業の利用者様の体験・リフレッシュ・等を含み実施した。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティ構築事業	マザリーアースファームでのお米と野菜作りを通して半農半就への基盤づくり 田植え	(A) 6月6日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田 (C) 4名	(D) 会員、飛騨エリア 住民、 (E) 8名	0円
④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティ構築事業	マザリーアースファームでのお米と野菜作りを通して半農半就への基盤づくり 稲刈り	(A) 10月10日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田 (C) 4名	(D) 会員、飛騨エリア 住民、 (E) 7名	0円
④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティ構築事業	マザリーアースファームでのお米と野菜作りを通して半農半就への基盤づくり 野菜作り	(A) 4月から毎月、週に1度程度 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C) 5名	(D) 会員、飛騨エリア 住民、 (E) 90名	43,631円

(2) 総費用 43,631円

(内訳) 事業費 消費品費 27,008円 諸会費 3,000円
支払手数料 220円

(3) 収益 27,562円

(内訳) 参加費 1,800円 (300円×6名) 消耗品寄付 25,760円

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

田んぼでのコメ作りを実施。手植えでの田植えから始まり、稲刈りを行った。また畑では、会員さんが自分たちで育てる作物を決めて種まきや苗植えなど、春から初夏にかけては会員さん主体で実施できた。秋作については、新しい場所での作付けとなったこともあり、農事担当主体で行った。

半農半就という意識を少しでも実現しようとする会員さんができる範囲で参加したことは次年度にもつながることと思われる。

また、就労準備事業の利用者様とスタッフが体験し、体を動かし、普段運動不足ぎみの利用者様にとっても土や作物に触れ心身のリフレッシュにも繋がった。また、独居高齢者の方もほぼ参加してくださり、作業の補助や田畑周りの草刈りなどを丹念にして下さり、若者と高齢者、つながり社会性、生きがいなどを創り出すフィールドとなった。

課題としては、田植えや稲刈りについては、コロナの影響で集客ができず、少ない参加人数となった。

また、ボランティア精神を大切にすることを根幹としていることもあり、できた作物を作業の対価としてお渡しすることや、種代の捻出に関しては当会の実情に合わせて考え方の整理が必要かと思われる。

⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業

(オ) 事業内容・東濃エリア

「土岐市就労準備支援および地域とつながる居場所事業」

生活困窮者自立支援制度に基づき、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが、できなくなるおそれのある者が、困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状況に応じて居場所利用または必要に応じ就労準備支援を行った。社会との関りに不安がある、他の人とコミュニケーションがうまくとれないなど、個々の課題に対し、日常生活自立、社会生活自立、就労自立に向けた訓練を実施し、社会的基礎能力を養い、就労、自立へ向けた支援や就労機会の提供を行った。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業	生活困窮者自立支援「土岐生活・就労準備支援センター 社会的居場所 いくるば」ひきこもり及び生活に困難を抱える方に就労体験等を行い自立への就労準備支援および居場所事業を実施。	(A) 通年 利用者に応じ随時 (B) 土岐・生活就労準備支援センター・社会的居場所 いくるば (C) 4名	(D) 土岐市および関係機関からの相談者、不特定多数 (E) 17名	就労準備支援 6,644,499円 居場所 3,277,453円

(2) 総費用 6,644,499円 (就労準備支援)

(内訳) 人件費 4,894,342円

事業費	業務指導費	624,000円	印刷製本費	107円
	旅費交通費	58,034円	通信運搬費	409円
	消耗品費	16,438円	教材費	2,188円
	水道光熱費	993円	地代家賃	483,333円
	広告宣伝費	6,878円	支払手数料	9,533円
	雑費	3,229円		
管理費	車両費	67円	通品運搬費	99,278円
	消耗品費	70,351円	水道光熱費	129,997円
	減価償却費	68,970円	保険料	8,653円

租税公課	1,900 円	支払手数料	160,124 円
支払利息	5,675 円		

総費用	3,277,453 円 (地域とつながる居場所)			
(内訳) 人件費	2,444,126 円			
事業費	業務指導費	312,000 円	印刷製本費	53 円
	旅費交通費	26,366 円	通信運搬費	205 円
	消耗品費	8,219 円	教材費	1,094 円
	水道光熱費	497 円	地代家賃	236,667 円
	広告宣伝費	3,439 円	支払手数料	4,767 円
	雑費	1,615 円		
管理費	車両費	33 円	通品運搬費	49,638 円
	消耗品費	35,176 円	水道光熱費	64,998 円
	保険料	4,237 円	租税公課	950 円
	支払手数料	80,446 円	支払利息	2,837 円

(3) 収益 9,000,002 円

(内訳) 土岐市委託料 6,000,000 円(就労準備支援) 預金利息 2 円
土岐市委託料 3,000,000 円(居場所)

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

就労準備支援および居場所事業について、年間のスケジュールと実績目標をもとに活動を行った。コロナ渦において、利用者の減少や社会資源の活用等が思うように出来なかった。その中においても、社会学講座やセミナー、地域貢献活動、農事体験等を利用者の課題に沿って行った。本年度は家族からの相談が増え、当事者の居場所利用へつながったケースもでてきた。感染予防対策を徹底した中での「いくるば寄り道カフェ」の開催も2年目となり、地域の方との交流、子供たちとの交流も深めてくれた。2月に開催予定だったひき

こもり支援の交流会もコロナ渦において中止となったが、今後も土岐市自立相談支援担当、関係機関との連携を強化し地域に根付いた支援を継続していく。

・実績

土岐生活・就労準備支援センター 社会的居場所「いくるば」

開設日：令和3年4月1日～令和4年3月31日

・参加者

就労準備支援： 延べ利用回数 96回（男子1名、女性0名） 実人数 1名

地域でつながる居場所：延べ利用回数 336回（男子10名、女性6名） 実人数 16名

開設日（通年）242日（利用者：1日平均1.76名）

（カ）事業内容・東濃エリア

「岐阜県 東濃圏域ひきこもり居場所事業」

ひきこもりに悩む当事者やご家族の方々が、誰にも相談できず地域社会から孤立してしまう状況の中で社会とのつながりを回復するために、安心して過ごせる場所や、自ら役割を感じる機会が必要であることから、安心感や共感性を大切にした居場所を設置し、当事者の孤立を防ぎ、社会とのつながりの回復につなげていく。

（1）開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業	東濃圏域ひきこもりの居場所事業（岐阜県ひきこもり地域支援センター）当事者や家族の相談、交流、社会参加の場所となるよう支援する。	(A) 月2回 (B) 土岐市及び恵那市の会場 (C) 2名	(D) 行政、諸団体からの相談者、不特定多数 (E) 12名	609,072円

（2）総費用 609,072円

（内訳） 人件費 345,985円

事業費	車両費	195,719円	賃借料	54,130円
	広告宣伝費	11,198円	租税公課	400円
	支払手数料	1,100円		

管理費 通信運搬費 540 円

(3) 収益 607,117 円

(内訳) 岐阜県委託料 607,177 円

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

昨年度と比較し、開催回数は増加したがコロナ渦での影響も含め参加者の減少が著しくあった。居場所利用前のフリースペースとして特化するのか、地区の関係機関へのつなぎ役としての場所として特化するのかを地区の行政をはじめとする関係機関への周知だけでなく、意義や意味の理解をしてもらうため担当支援者と関係機関の担当者等との信頼関係を再構築することが課題とします。次年度は開催の回数が24回から30回に増えることを考慮し、より地域に密着できる体制強化が必要となります。

・実施内容

フリースペース、悩み相談、傾聴、ゆるやかなコミュニケーション、読書、ゲームなど。
関係機関との情報交換、情報共有等。

・実施回数

恵那エリア（木ポイント）11回 *新型コロナウイルスまん延により1回中止
土岐エリア（土岐市文化プラザ）10回 *新型コロナウイルスまん延により2回中止
合計21回開催

・参加者 延べ人数 当事者9名（男子9名、女性0名） 実人数 2名

*延べ人数 付添者2名（男子0名、女性2名） 実人数 1名

*延べ人数 相談者2名（男子0名、女性2名） 実人数 2名

開催日数 21回（当事者：1回平均0.43名、参加者：1回平均0.62名）

(キ) 事業内容・飛騨エリア

飛騨市より委託事業。就労準備支援が必要とされ利用を希望される対象者に対し就労準備支援のプログラムを作成。対象者の希望を聞き、必要な場合は関係機関とも連携を取りながら、生活自立、社会自立、就労自立を目指して支援を実施。

【実施状況・実績】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	22
女性	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	30
見守	2	1	1	1	1	1	0	1	1	1	2	3	15
合計	7	5	5	5	5	6	5	5	5	5	7	7	67

延べ利用人数 67名/年 (男性5名 女性3名)

延べ利用日数 330日/年 (年間)

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：千円)
⑤社会的包摂推進に係る事業	飛騨市より受託する生活困窮者就労準備園事業の農×ジョブチャレンジ事業実施。	(A) 通年 (B) いくるば・ひだ (C) 3名	(D) 飛騨市より受託する生活困窮者 (E) 8名	4,763,001円

(2) 総費用

総合計 4,736,001円

(内訳) 人件費 1,923,350円

事業費	業務連携費	360,000円	旅費交通費	11,000円
	車両費	151,287円	通信運搬費	740円
	消耗品費	310,412円	教材費	495円
	修繕費	162,800円	燃料費	2,986円
	地代家賃	761,168円	賃借料	250,000円
	研修費	12,600円	支払手数料	77,730円
管理費	通信運搬費	95,665円	消耗品費	163,099円
	修繕費	48,070円	水道光熱費	213,293円
	保険料	10,460円	租税公課	5,000円
	支払手数料	160,217円	県市民税	42,659円

(3) 収益

総合計 4,763,001 円

(内訳) 飛騨市委託料 4,736,000 円 預金利息 1 円

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

不登校やひきこもりの状態が長く、人との関りや、コミュニケーションに不安を感じている方々の場合、就労や社会復帰に向けた支援は長期化する傾向にあるものの、ゆっくりしたペースでも着実に力をつけて、変化していく姿があった。落ち込んだり、通所を休む期間があっても、本人のペースに寄り添い尊重していくことで、人への抵抗感を少しずつ減らしていき、他者との関りを増やしていくという地道な経験を通して、自信をつけ、通信高校の卒業や職業訓練等の次のステップに繋がっていくことが出来た。

様々な状態の利用者への支援では、人への抵抗感は少なく就労意欲はあっても、身体面で課題があったり、障がいのグレーゾーンで福祉支援を受けられない方など、本人の努力だけでは就労に繋がらないような利用者が多くなっており、それぞれの利用者が持っている力が発揮できる職種や雇用先を見つけていくことが課題となっている。来年度も自治体や各機関との連携しながら、進めていきたい。

(ク) 事業内容・飛騨エリア

岐阜県精神保健福祉センターからの委託事業。飛騨圏域（高山市、飛騨市）にて実施
ひきこもりの当事者及び家族が地域社会から孤立する状況を防ぎ、社会とのつながりを回復するために、安心感や共感性を大切に居場所を設置し、対象者の孤立を防ぎ、社会とのつながりの回復を目指すための支援を行う。

・実施回数

高山市（こくふ交流センター）	6 回	*新型コロナウイルスまん延により 2 回中止
飛騨市（神岡船津座）	7 回	*新型コロナウイルスまん延により 2 回中止
合計	13 回開催	

・参加者 延べ人数 当事者 32 名（男子 7 名、女性 25 名） 実人数 15 名
 ＊延べ人数 家族 10 名（男子 0 名、女性 10 名） 実人数 5 名
 開催日数 13 回 （当事者：1 回平均 2.5 名、家族 0.8 名）

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑦ 社会包摂 推進に係る 事業	岐阜県飛騨圏域ひきこ もり居場所事業の開 催。岐阜県精神保健福 祉センターからの委託 事業。	(A) 月 2 回 (B) 高山市及び飛騨 市の会場 (C) 2 名	(D) 行政、諸団 体からの相談 者、不特定多 数 (E) 42 名	582,229 円

(2) 総費用 582,229 円

(内訳) 人件費 395,505 円
 事業費 旅費交通費 38,330 円 消耗品費 56,637 円
 教材費 15,212 円 賃借料 41,920 円
 広告宣伝費 21,435 円 研修費 12,210 円
 支払手数料 420 円
 管理費 通信運搬費 360 円 租税公課 200 円

(3) 収益 570,000 円

(内訳) 岐阜県委託料 570,000 円

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

東濃エリアに続き、今年度より飛騨圏域事業として受託した。居場所開設して、すぐにまんえん防止措置期間に入り、2カ月中止になるなど、広報活動等工夫が必要であったが、徐々に利用される方が増えてきた。当事業が必要な人の目に留まるような広報活動が今後の検討課題である。

⑥食育を推進する事業

(ケ) 事業内容・飛騨エリア

農林水産省食育事業。飛騨在来種大豆「はところし」の種まきとポット播種持ち帰り育苗、大豆の刈り取り、刈り取った大豆で味噌作り・きな粉作り体験を通して畑から食べ物ができる過程を体験を通じて知っていただく。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進する事業	農林水産省・令和3年度食料産業・6次産業化交付金（地域での食育の推進事業）飛騨の在来大豆蒔き 生き物いっぱい畑で飛騨在来種の大豆『はところし』種まき	(A)5月22日 (B)飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C)5名	(D)会員、飛騨エリア住民、 (E)31名	66,634円
⑥食育を推進する事業	農林水産省・令和3年度食料産業・6次産業化交付金（地域での食育の推進事業）大豆の収穫	(A)11月20日 (B)飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C)5名	(D)会員、飛騨エリア住民、 (E)24名	41,669円
⑥食育を推進する事業	農林水産省・令和3年度食料産業・6次産業化交付金（地域での食育の推進事業）収穫した大豆で味噌作り・きな粉づくり	(A)R4年1月29日 (B)飛騨市古川町公民館 (C)5名	(D)会員、飛騨エリア住民、 (E)25名	134,310円

5/22 大豆播種

(2) 総費用	66,634 円			
(内訳) 事業費	印刷製本費	900 円	消耗品費	24,590 円
	賃借料	8,000 円	広告宣伝費	11,680 円
	支払手数料	21,464 円		
(3) 収益	63,700 円			
(内訳)	農水補助金	53,100 円		
	参加費	10,600 円 (31名)		

11/20 大豆刈り取り

(2) 総費用	41,669 円			
(内訳) 事業費	印刷製本費	110 円	消耗品費	4,238 円
	賃借料	20,000 円	保険料	1,350 円
	支払手数料	7,171 円		
(3) 収益	46,800 円			
(内訳)	農水補助金	35,400 円		
	参加費	11,400 円 (24名)		

1/29 味噌作り

(2) 総費用	134,310 円			
(内訳) 事業費	諸謝金	18,000 円	通信運搬費	6,900 円
	消耗品費	1,054 円	賃借料	1,860 円
	広告宣伝費	44,240 円	保険料	1,350 円
	支払手数料	19,680 円		
(3) 収益	110,500 円			
(内訳)	農水補助金	88,500 円		
	参加費	22,000 円 (25名)		

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

5月の播種から11月の刈り取り、そして年を越しての1月の味噌作りと、長期に渡って同じご家族の皆様と一緒に、大豆の生育を見守り、収穫した大豆で味噌ときな粉作りを行えた。

播種イベント前日まで雨が続き、土が湿って固い状態の中での播種を余儀なくされた為、発芽が著しく不良で、再度種まき育苗して苗を定植するという波乱のスタートであったが、その後は順調に生育して、刈り取りができた。

また、今回から収穫した大豆を事前にお届けして、各自で浸水して煮た豆を持参いただき、味噌にするという流れで行い、味噌作りの過程を大豆の種まきから実体験していただけたことで、最後のイベントの感想では、各々、気づきや学びを得て頂いたようで、お子さんの食育体験という意味でも、また親御さんの食への意識変革という意味でも、意義のある内容であったことがうかがえる。課題としては、播種したが天候により発芽不良となったこともあり、コンディションに合わせてスケジュールを変更するのか、参加者に通知した予定に合わせることを最優先するのかの検討が必要と考えられる。

またコロナの影響で個別のイベントのみの参加者募集ができなかった。

また、農水事業の事業決定が5月のイベント直前になってしまう実情があり、事前のチラシ制作費用などの負担が生じることとなり、次年度以降の検討が必要と思われる。

以下アンケートの感想

大豆播種・感想：

- ・子供たちが生き生きと参加できた！ 畑仕事が好きなので楽しめました
- ・普段できない貴重な体験ができて良かったです。子供も思いっきり土を触れて楽しそうでした。
- ・子供が想像以上に真剣にやっていたのが印象的だった。・子供と一緒にゆっくり楽しめる時間が持ててよかった。子供もこれを機に環境等について考えてくれるようになってくれると嬉しい。

大豆収穫・感想：

- ・ベランダで育てていた枝豆が収穫時にイモムシがいて、こんなに高いところまで虫が来るのかとびっくりしました。枝豆は本当に美味しかった。
- ・子どもが水やりから収穫までしてくれとても喜んで大豆の成長を見守れた。
- ・初めてする体験でとても楽しめた。食育に繋がる体験なのですごく良い。
- ・何かを育てるとというのが初めてだったので、育て方を具体的に説明して頂いたのが上手に育てることができました。
- ・自分で育てて自分で茹でて食べるのが楽しかったみたいで子供にも良い経験になりました。

味噌作り・感想：

- ・何もないところから大豆ができて、それを収穫して味噌やきな粉になる。普段、身近のものになっていくのが、改めて時間のかかる事だなと感じました。その分、ありがたさも感じるし、おいしさも感じられました。自給自足の楽しさ大変さ大切さを学びました。

- ・いつもスーパーで買っている味噌やきなこが、手を加えれば家でもできると、身近に感じました。
- ・お味噌を作るのにこんなに手間がかかっているんだと実感することができた。今は便利になりすぎてなあと考えた。
- ・ふだん食べているものが、大変な労力のもとに作られていることを改めて感じました。
- ・まめ作りからみそ作りまで、自然の力を借りて自分達で作りあげることがステキだと思いました。
- ・こんな手間がかかっているのかとびっくりしましたとてもいい体験ができました。

(コ) 事業内容・飛騨エリア

○夏野菜の収穫と川魚の手づかみと魚をさばく体験、BBQ のイベントは、新型コロナウイルスの影響により中止。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
④安全で安心して食せる食育を推進する事業	野菜の収穫と川魚の手づかみ&さばいて生命を頂く BBQ 体験は、新型コロナウイルスの影響により中止	(A) 中止 (B) 飛騨エリア、ありがとうファーム内 (C) 0 人	(D) 会員、地域住民 (E) 0 人	0 円

(2) 総費用

総合計 0 円

(3) 収益

総合計 0 円

(サ) 事業内容・飛騨エリア

新しい建物に移転した直後でのイベント。マザリーアースファームにてサツマイモの収穫体験をし、その後、新しく移転した「いくるば・ひだ」に移動して火起こし体験、焼き芋、ジビエ汁のふるまい。飛び入りの風船パフォーマンス、ミニコンサートなど子供が目を輝かせて遊んだり取り組んだりして過ごしていただいた。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑥ 食育を推進する事業	第5回アーステーブル〈Earth Table・大地の食卓〉イベント開催 栽培したもち米で餅つき、大豆できな粉づくり	(A) 11月6日 (B) 飛騨エリア、ありがとうファーム及び旧山田保育園 (C) 12名	(D) 地域住民、会員 (E) 21名	13,818円

(2) 総費用 13,818円

(内訳) 事業費 1,980円 消耗品費 1,980円 教材費 990円
 広告宣伝費 2,900円 保険料 2,890円

(3) 収益 23,500円

(内訳) 参加費 23,500円 (一般1,500円×4名、小学生500円×5名 会員1,000円×15名)

(4) 事業の様子



(5) 成果と課題

事前に役割分担と準備をしてイベントに臨むことができ、農業体験、ジビエ汁、飛び入りのパフォーマンスや火起こし体験など盛り沢山で、体験を通じて自然に感謝していただける機会の提供ができたと思われる。

火おこしについては、後日、火の消し方も教えてもらいたかったという意見もあり、着火と消火をセットでお伝えするなど課題としたい。

また、音楽は担当者に任せて実施したこともあり、ズルズルと中途半端な流れとなってしまったので、タイムテーブルと時間の管理をキッチリとマネジメントしてイベント運営することを注意したい。

(シ) 事業内容・美濃エリア

自分たちで育てた大豆を使い、自分たちの手による味噌づくりを通じた食育の推進
正会員のメンバーとその子供たちを中心に、自分たちで育てた大豆を使った味噌づくりを行なった。
大豆の播種作業同様、当会の副理事長でもある雲英頭一より味噌づくり指導を受けながら、子どもたちも一緒になって味噌づくりを実践した。

【スケジュール】

- 10:00 味噌づくり（米麴・塩混ぜ、大豆潰し）
- 12:00 昼食
- 13:00 味噌づくり（樽詰め作業）
- 15:00 終了

【参加者】

理事：2名、正会員：7名 一般：9名（子ども9名）

【参加者の反応、感想】

- ・味噌づくり自体が初めてで勉強になった。
- ・自分たちで育てた大豆で味噌まで作る事で、食べ物の有難さがよく分かった。
- ・子供たちも一緒に取り組めるので、とても良い食育の機会となった。
- ・どんな味の味噌になるか今から楽しみ。

(1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進する事業	収穫した大豆で味噌作り	(A)1月23日 (B)美濃エリア、 和紙の里わくわくファーム「創造交流館」 (C)3名	(D)会員 (E)15名 (大人6名、子ども9名)	29,702円

(2) 総費用 29,702 円
 (内訳) 事業費 仕入高 23,328 円
 消耗品費 5,364 円 賃借料 1,010 円

(3) 収益 27,000 円
 (内訳) 参加費 27,000 円 (4,500 円×6 名)

(4) 事業の様子

 <p>集合写真</p>	 <p>①米麴と塩を混ぜる</p>	 <p>②①と大豆を混ぜる</p>
 <p>③②を足で潰す</p>	 <p>④③を丸めて樽に詰める</p>	 <p>⑤完成</p>

(5) 成果と課題

初めての味噌づくり作業だったため段取りが分からなかったが、雲英副理事長はじめ飛驒エリアの味噌づくりの実績を事前に共有し、前日までに各家庭で大豆を茹でるところまでの作業をメンバーで分担して行なったため、比較的スムーズに味噌づくりが行なえた。

一点だけ、大豆に対する、米麴と塩の分量計算に時間がかかったため、予め計算式の入ったエクセルシートを用意しておくによりスムーズに行える。

工夫した点としては、味噌蓋用の美濃和紙を使用する事で、美濃という地域色を出す事ができた。

反省点としては、事前告知を含めた周知不足により、当初 30 名の参加予定が正会員とその家族を中心に 15 名 (子ども含む) となってしまったため、来年度以降は正会員以外の参加も促せるよう、事前告知や声掛けに務める必要がある。

また、コロナ状況下において創造交流館の定員に制限があるため、来年度に参加が増える場合は隣の食品加工室も借りるなど工夫が必要となる。

⑨管理事業

(ス)事業内容

事務局管理費

(1) 総費用	46,469 円				
(内訳)	管理費	旅費交通費	1,360 円	通信運搬費	5,650 円
		消耗品費	12,680 円	賃借料	1,870 円
		広告宣伝費	498 円	新聞図書費	6,000 円
		支払手数料	18,411 円		

(2) 収益	443,018 円				
(内訳)	受取入会金	18,000 円			
	正会員受取会費	125,000 円			
	団体・企業受取会費	20,000 円			
	寄附金収入	280,015 円			

総会費

(1) 総費用	27,688 円				
(内訳)	管理費	印刷製本費	9,790 円	通信運搬費	3,880 円
		消耗品費	10,868 円	賃借料	3,150 円
(2) 収益	0 円				